

勤務医師不足による

診療体制について

周桑病院からのお知らせ

昭和初期、地域の人々の「この地域に病院を」という切実な願いと必死の努力によって誕生した周桑病院。地域に密着し、住民の皆さんに親しまれ頼りにされる病院として努力してまいりました。その後、幾多の変遷を経て、平成16年11月1日の合併によって西条市立周桑病院として新たにスタートしました。

しかし現在、全国的に地方の医師不足が進んでおり、派遣元の大学による医師の引揚げや医師の開業退職が重なり、診療の要となる病院勤務医が大幅に不足するという問題に直面しています。

このため、現在の診療や救急医療に影響し、地域の皆さんに大変ご不便をおかけする事態となっております。ご説明いたします。

地方の医師不足

最近、なぜ地方に医師が不足することになったのか、最も大きな要因は平成16年に始まった国の新臨床研修医制度にあると考えられています。

新制度では、医学部卒業後2年間の研修が義務化され、研修医はこの研修先病院を自

由に選ぶことができないようになりしました。その結果、今までのように卒業大学に残らず、処遇や環境等の条件が良い都市部の大病院へ研修医が集中し、大学から医師が不足するという現象がおきています。

医師が不足した大学は、派遣先の病院から医師を呼び戻すため、以前から医師派遣を大学医局に頼っているほとんどの病院が、医師不足に悩まされており、この構造的な医師不足は急激なテンポで進んでいます。

また病院の勤務医は、入院を必要とする重症者を主に担当する上に救急医療にも携わり、リスクの高さに加え恒常的な時間外労働から激務と云って過言ではありません。

そのため開業する医師が増加し、勤務医が減少するという傾向が強くなっており、このことも病院の医師不足の大きな一因となっています。

診療科の偏在

全国各地で問題となっている産科・小児科医師不足の原因は、お産や子どもの疾患が訴訟等のトラブルになりやす



くりリスクが高いことや、24時間体制での医療供給が求められるなど過酷な労働条件であることから、産科医・小児科医のなり手が減少したことによるもので、診療科別の医師数が偏在するという問題も発生してきています。

今後の診療体制と救急医療

全国的な医師不足、特に関係大学の医師不足の影響から、当院の医師不足も深刻な状況となっており、現在、小児科は診療を休止し、精神科も今年3月末で休止する予定です。

4月からは、整形外科、脳神経外科が通常の診療から週1日程度の診療に変更せざるをえず、産婦人科も6月以降

は同様となり、内科、外科を中心とした体制となっております。

また、救急患者の受け入れにつきましても医師数の大幅な減少、専門医の減少から、今までのようにお応えすることは困難となりますが、医師会や他の救急病院のご協力を得ながら、できる限りの対応を図ってまいります。

困難な状況ではありますが、周桑病院は地域になくしてはならない病院として、医師確保を最優先に取り組み、地域の皆さんに安心していただける診療体制づくりに努めてまいります。

問合せ

周桑病院 総務課
TEL 0898-64-2630